

川島宏治の プラス

1面から続く

広島国際学院(広島市安芸区)理事長・総長 田中 満彦さん

組みは何ですか。

2020年度に向けて進められている大学入試制度改革では、自分を表現する力、人とコミュニケーションをとる力など、さまざまなことが求められています。その力を鍛えることは、現在、高校の3年間でもやっていますが、やはり6力年が必要だと思っています。今年4月、中学校を開校します。

— 教育者の家庭で育っていらっしゃるんですね。
創立者が曾祖父(鶴虎太郎氏)ですから、その考えが常に頭の中にあります。どんな子どもでも受け入れて教育していくという理念です。

— いろいろな背景や個性を持った生徒がいます。この方面は難しいけれど、こつちの道には向いているとか。広島国際学院高はコースをたくさんそろえ、個性に合わせて本人の居場所とやりたいことを含めさせるようにしています。

— 理事長として新しい取り

広島国際学院の教育理念や4月開校の中学について語る田中さんと、川島さん
(広島県海田町)



たなか・みつひこ 2002年、広島大大学院理学研究科数学専攻博士課程後期を修了。広島大助手や広島県立高の非常勤講師などを務めた。10年に広島国際学院高の教諭になり、教頭、副校長を経て、18年4月に学校法人広島国際学院の理事長・総長に就任した。休日は家族と買い物などをしてゆっくり過ごすという。広島県海田町出身。45歳。

— できるだけ外光を屋内に取り込み、明るくて風通しがいい造りにしています。

— 「百錬錬磨」という授業を設けるそうですね

本校は土曜の午前まで授業を行う週6日制ですから公立に比べ、例えば英語で1・7倍の授業数があります。総合学習も4、5時間は取れます。土曜日を丸々その時間に充てて「百錬錬磨」という名称で実学を取り入れます。農業体験や外国人旅行者を対象にした英語ガイド、プログラムミング学習などを行います。学力だけではなく、人間力を鍛えたいと思っています。

— 子どもたちに自分で考えさせるということですか。

動画は中国新聞アルファで



— 地元の広島県海田町の史跡を調べようと思ったらチームをつくって計画を立てることになるでしょう。一時期、グローバル化がいわれ、世界のことを知ろうとよく言われましたが、異文化の人と交流するには自分たちの文化への理解が必要です。まず身の回りを、そこから広げることが大事なのです。

— 経営と教育とのバランスは意識しますか。
私立の場合、両者は完全にリンクしています。生徒や保護者に選んでもらえるものをつくること、あの学校は生徒に付けてほしい力を、ちゃんと付けさせているね、と思われものをつくっていかねばなりません。

— 創立者の最期の言葉です。若い時から、時には私財を出して学校をつくってきた人です。病床で亡くなる時に言われたのが、「この学校を永遠に伝えてほしい」ということでした。それは創立の意図を伝えてほしいという意味なのです。本学は創立して92年になります。10年先も見えない社会状況の中で、今後ずっと続いていくためにどういう手を打てばいいのか、一つの視点になると思います。

— 創立者は教育愛を理念ではなく、実践した人です。誰に対しても、いつでも、できれば全ての人に、という気持ちで。最期の言葉はその精神を永遠に残してほしいという願いなんです。それを知った時は衝撃的でした。

田中さんの放送は、ちゅピCOMで22日まで。放送時間は原則、ふれあい・ひろしまが午前10時、午後7時、同11時半、おのみちが午前10時、午後4時、同11時半。放送時間は変更になることがあります。本紙朝刊番組欄などをご確認ください。

今春中学校開校 実学で人間力養う